

緑の風 FAX版



JR 東労組ホームページ

NO. 79 2020年3月12日 JR東労組

20春闘を全組合員でたたかおう！

昨日は、20春闘の大手企業の集中回答日でした。トヨタ自動車が一歩アップを7年ぶりに見送るなど、安倍首相が賃上げを要請してきた「官製春闘」ももはや限界です。

また、新型コロナウイルスの感染拡大が経済に影響を及ぼし始めていますが、あくまでも中長期的な視点であり、私たちは「労働力の価値」を高めてきています！「労働力の価値」に対して正当な投資をすることを強く求め、最後まで全組合員で20春闘のたたかいはつくり出していきましょう！

ベア転換期

令和2年春闘の主要企業の回答

業種	企業	ベア(月額)	要求	年間一時金	要求
自動車	トヨタ自動車	ベアなし(手当など含む総額で8600円)	総額で1万100円	6.5カ月	6.5カ月
	ホンダ	総額で1500円	総額で2000円	5.95カ月	6.0カ月
	日産自動車	総額で7000円	総額で9000円	5.4カ月	5.4カ月
電機	パナソニック	総額で1000円		業績連動	
	日立製作所	1500円		6.0カ月	6.3カ月
	三菱電機	1000円	3000円以上	5.7カ月	6.04カ月
	富士通	1000円		業績連動	
造船	東芝	総額で1300円		業績連動	
	NEC	総額で1000円		業績連動	
	三菱重工業	1000円	3000円	5.65カ月	5.95カ月
建設	川崎重工業			業績連動	
	コマツ	1000円	3000円	業績連動	
鉄鋼	日本製鉄			業績連動	
	JFEスチール	ベアなし	3000円	業績連動	

トヨタ 7年ぶりゼロ回答

ドミノ警戒

令和2年春闘でトヨタ自動車は、一律賃上げのベアアップ(ベア)について7年ぶりのゼロ回答を選択した。新型コロナウイルス拡大の影響ではなく、賃金水準が既に「国内トップレベルにある」との判断からだ。総額は一定の賃上げを回答し、労働組合側も理解を示して「ベアゼロ」シヨックの他社へのドミノ波及を恐る。ただ、トヨタは1兆円を超す利益を生み出す超優良企業だ。電気自動車などで他業種参入も相次ぐ。業界環境が背景とはいえ、疑問の声も上がる。(今村雅之) 3面に関連記事

利益1兆円超：疑問の声

「平成14年当時と状況はまったく異なる。今回は他の主要・中堅労組も着実に回答を得ている」。トヨタグループの約300の労組で構成する全トヨタ労連の山口健事務局長は記者会見で「ベアゼロのドミノ波及を強く警戒した」。

「平成14年」とは、当時史上最高益を見込むトヨタがベアゼロとなった年だ。結果的に他業種も追随、その後

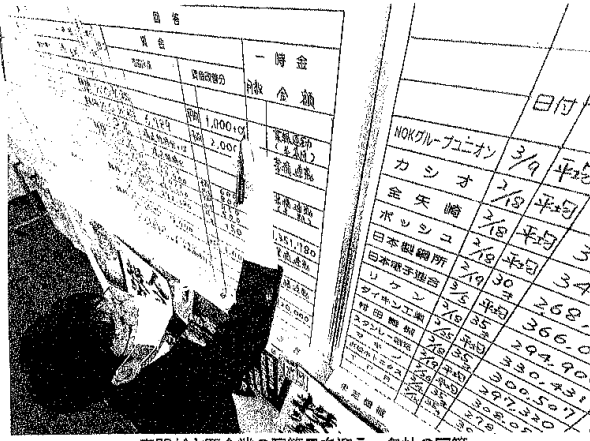
働き方改革 労使前向き

人手不足、環境整備で回避

トヨタの回答のうち中堅技能職の個別水準額は、自働車給付が目標に掲げた「37万円」を上回った。西野勝義執行委員長は「(高水準との)会社側の問題意識は理解できる」と話す。

高倉明、自動車給付委員長は「全業種が等しく賃上げが実現するかが注目される。」

企業は既に「少ない」とないか」と理解を示した。経団連の中西宏明会長もトヨタについて「賃上げはトヨタについて、賃上げは満額となるなど、従業員に対する気遣いも回答では、声も上がりそうだ。」



春闘が主要企業の回答日を迎え、各社の回答をボードに書き込む担当者=11日、東京都内

春闘が主要企業の回答日を迎え、各社の回答をボードに書き込む担当者=11日、東京都内

春闘が主要企業の回答日を迎え、各社の回答をボードに書き込む担当者=11日、東京都内

春闘が主要企業の回答日を迎え、各社の回答をボードに書き込む担当者=11日、東京都内

